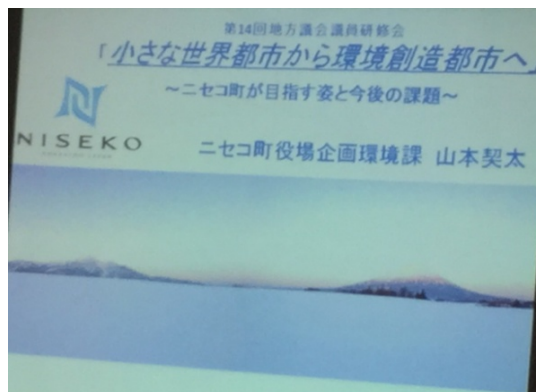


北海道ニセコ町

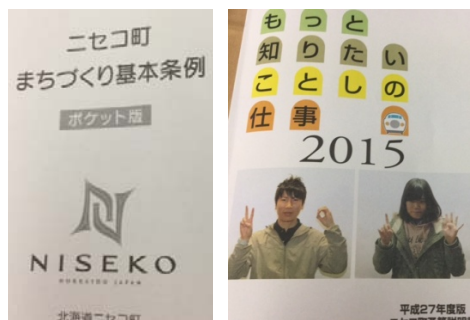
ニセコ町については、現役時代に「地方財政論」の講義で何度も取りあげた。ニセコの情報公開とまちづくりを紹介した映像・資料により、地方財政のしくみと運営、その問題点を説明した。2005年6月19日レポートでも紹介したが、2代前の町長・逢坂誠二さんの『町長室日記』はとりわけ参考になった。

先日の「議員研修会」初日の全体講義で写真のような話を聞くことができた。講師はニセコ町役場企画環境課長の山本契太さんで、じつにわかりやすい「ニセコ物語」であった。テーマは「小さな世界都市から環境創造都市へ」で、ニセコ町のまちづくりの歩みと今後の課題などをビジュアルに語った。



インバンド観光の急成長など、ニセコの現状を説明したあと、本題「こんなわがまちがまちづくりで大切にしていること」を資料により紹介する。住むことが誇りに思えるまち、それを実現する手段、道具へと話を進めていく。なかなか展開がうまい。わたしの講義にも参考になることが多かった。

ポイントは「情報共有」と「住民参加」であり、それを「まちづくり基本条例」に結実させた。会議は原則公開、まちづくり町民講座、情報公開を



支える文書管理システムなど、ニセコならではの活動が紹介される。長年の実践にもとづく話は、やはり説得力がある。質疑でも、こうした実践例に対するものが多かった。

わたしの講義にも関係して注目したのは「自治創生」ということばだ。私の講義の「最終チェック」をしている中で、ニセコ町の広報を検索してみた。『広報ニセコ』2015年8月号にQ&A形式で次のように書かれていた。

ニセコ町は、国の「地方創生」以前から、「まちづくり基本条例」に基づいて、町民1人ひとりが、自ら考え、行動することによる「自治」を基本としたまちづくりを進めてきた。その意味をこめて、「自治創生」と読んでいるという。こうした姿勢がニセコらしさを示している。

ニセコ町の予算書は前から有名だが、実際に手にとって見てみて、やはり「情報共有」の意味を感じることができた。予算説明書には「情報は自治の源泉」と書かれていた。いつかニセコに行ってみたい。

(2015年11月1日)